

## 【耳鼻咽喉科領域】

耳鼻咽喉科領域のうち診療においては全分野にわたります。研究については聴覚生理（難聴・耳鳴・補聴器・人工聴覚器・聴覚スクリーニング等）に重点をおき、小児難聴や難聴遺伝子、中耳病態生理など、臨床と密接に結びついた研究を行なっています。

### 1. 臨床聴覚：

難聴・耳鳴の診断および治療については岩手県のみではなく、秋田県、青森県の一部を含めて、各関連病院と連携をとりながら診療を行っています。なかでも高度感音難聴の患者様につきましては人工内耳手術を行っております。人工内耳手術は東北地方では最も豊富な経験を有しており、最近では1歳前後の小児例も数多く手掛けております。人工内耳では術後のリハビリも極めて重要ですが、より早く社会復帰に近付けるように努力し、アフターケア等も欠かさず行っています。最近では外耳道閉鎖などの治療困難な伝音難聴に対する新たな人工聴覚器である人工中耳や骨導インプラントの手術も行っています。

研究面では、耳音響放射やワイドバンドティンパノメトリ、補聴器の適性検査、音響分析を含めた補聴器の特性、突発性難聴の予後因子の検討、高度難聴者の質的診断として聴性定常反応、小児難聴の遺伝子診断など多岐に渡っております。さらに、最近では放射線科と共同で超高磁場MRI（3テスラおよび7テスラMRI）を用いた聴覚器の微細構造の画像表現化をめざした研究や、難聴者が音をどのように理解しているのかを調べるための大脳における音処理機構の研究も行っています。

### 2. 中耳病態生理：

慢性中耳炎、真珠腫性中耳炎、耳硬化症、中耳奇形、外傷性耳小骨離断など中耳疾患の診断と治療について画像診断を交えて研究しております。放射線科との協力のもとにCT画像を様々な角度から再構築し、立体ヴァーチャル画像を新たに作成した上で手術に望み、術中所見との対比、術後成績を左右する因子などについて研究しています。最近では従来の高分解能CTを大きく上回る解像度を持つCTを用いた研究も行っています。耳管開放症を中心とした耳管機能障害については、耳管開放症の研究を専門とする池田怜吉准教授を中心とするスタッフが、患者の診断から治療までを担当し、臨床研究を進めています。

### 3. 鼻科領域：

鼻内視鏡導入に伴い、副鼻腔炎の治療はすべて内視鏡下にて行っています。ナビゲーションシステムを用いて、常に安全にまた適切に手術が行われるよう万全の対策を図るよう努力しております。内反性乳頭腫や神経鞘腫、若年性血管線維腫など、鼻副鼻腔か

ら翼口蓋窩、頭蓋底の良性腫瘍に対しても、鼻内から内視鏡手術を行っています。

#### 4. 咽喉頭領域：

睡眠時無呼吸症候群の外科的治療も行うようになっております。嚥下障害や音声障害に対しても、嚥下機能評価や音声分析をおこなっており、適応のある症例に対しては外科的治療も行っていきます。